

●技術情報

Q&A

[6] 作物別施用法（麦類）

Q6-2-3 稲麦二毛作で麦稈すき込み時に石灰窒素を20~30kg/10a施用していますが、後作の水稻基肥の窒素はどうすればよいのでしょうか？

A6-2-3 麦稈のすき込みは、すき込みから水稻作付期までの期間が短いこと、稲わらに比べて炭素率が高いため湛水した土壌では分解が遅れ、水稻の初期生育に影響が出やすくなります。したがって、麦稈すき込みでは、特に初年目は窒素飢餓対策として基肥窒素を慣行より20~30%増量するのが一般的です。また、麦稈連用田では水稻の生育が徒長傾向となり倒伏しやすくなります。麦稈腐熟のために石灰窒素を20kg/10a施用した場合には、逆に基肥の施肥量を減らした方がよいでしょう。

表6-2-2 麦稈すき込みに対する石灰窒素の添加効果(栃木県農試・1976年)

	施用量 (kg/10a)					収穫期の生育状況			収量調査				
	石灰 窒素	N		P ₂ O ₅	K ₂ O	麦稈	稈長	穂長	穂数	稈 重	玄米 重	千粒 重	登熟 歩合
		基	追										
石灰窒素 施用区	15	4	5	14	13	534	78.7 cm	18.8 cm	368 本	789 kg/10a	430 kg/10a	20.8 g	76.9 %
対照区	0	7	5	14	13	518	77.0	18.6	363	736	388	20.8	76.7